

鉄-21世紀への夢

創立80周年記念懸賞作文入賞作品紹介 ③

日本鉄鋼協会では、創立80周年を記念して平成7年度に懸賞論文を募集しました。全国から寄せられた第1部（中学・高校生の部）195編、第2部（大学生・一般の部）187編のうち、選ばれた入賞作品について順次掲載します。

第1部 2等賞

鉄—二十一世紀への夢

三重県三重郡菰野町立八風中学校2年

南川 聡子

私にとっての鉄—。私達に一番身近にあって、あまり意識することのない鉄。そんな鉄の歴史は古く、今から4500年位前から始まり、現在に至って、もはや不可欠で貴重な金属だと言えます。

鉄と一口に申しますが、その種類も多種多様で私達が実際に目にしないものも多いと思います。私達の中には、鉄と聞くと硬くて丈夫だというイメージがあると思うのですが実際には硬くて丈夫だけではなく、考えてみると、針金のように自由に曲げたりできるものもあって驚きました。そして、それは普段何気なく使っていたのです。このような近代的な鉄をもっと有効に産業に活用してもらいたいと思っています。

次に、私は生活が便利になっていくと、どのような物質でも、資源が必要で、その資源が無限に存在することはないので、「今は便利で快適に使いたい分だけ使えるけど、将来果たして資源が持つのだろうか、底をついてしまわないだろうか。」と、どうしても考えてしまうのですが、鉄の良い所は、その特長でもある、

「資源として偏在せず、大量に存在する。」ということです。そして、何より、「酸化鉄として、自然に戻り環境を害することがない。」という、物質の中でも、私達に優しい金属です。それでこそ、長い歴史をかなでてきた、いつの時代になっても、私達の生活を支える、身近で、親しみやすい「鉄」なのでしょう。

最近では、新しい鉄鋼の用途が急増しています。例えば、鉄筋を使った大きな橋、私達の家の骨組み、これらの建築を、全て可能にしたのが、鉄。「新しい鉄の時代」と呼ばれる今は、毛髪十分の一という細さの、ステンレス繊維、学生服の

肩の部分にも形状記憶合金という、一定の温度を与えれば教えた形に必ず復元する、天才的な鉄が登場して、いちじるしく活躍している。これらの鉄に、私達は想像以上にお世話になっています。鉄に託す、私達の夢とは何でしょうか。

世界中を発展させるには、やはり地球に優しい新しい種類の鉄を見つけて、それを大いに産業の面で用いることが必要だと思われます。地球に優しい鉄は、本当にできるのか、と言われたら、私は必ずできると思います。そのためには、時間をかけて、21世紀を担う私達が最新の技術を使って見つけだすのです。私が夢見ている未来では道に鉄の磁力を使ってある装置が、下に埋められており、その上を走る車は、鉄でできていて、車は道の少し上空を走る、いや、飛ぶのです。そうしたら、交通網はスムーズに整理され、何らかの形で、交通事故などが減少するような気がします。そんなふうに、鉄が利用されたらとても楽しいと思います。安全で、実用性の高い鉄。それが私達が今、一番追求するものではないでしょうか。

鉄の発展とともに、世界中が富んでゆくことに関しては、本当にほほえましい事だと思いますが、反対に、戦争などで用いられる、爆弾、戦車といった、軍備のために鉄を利用している所があることを、私は残念に思っています。私達の先祖の人々が築きあげてきた輝かしい鉄の文明を、一瞬にして無駄にするようなもののために鉄を使う、といった行為だけは、どうかやらないでほしいと思っています。私達が、これから、この美しい地球に平和で、経済面においても、豊かに暮らしていくために—。

私は、今後も産業の発展、すなわち鉄の成長を大いに楽しみに待っています。未来を想像する、私達の平和のために—。

第2部 2等賞

鉄は新文化材

福岡県宗像郡

岡本 久人

素材が文化を創る

彫刻の噴水が絶妙な位置関係で並んだ街の広場、石材のわずかな色の違いが織りなすパターンは繊細だが堅固な石舗

道、レリーフ壁がある家々（パラッツォ）、鉄扉と微妙な調和をみせる門壁のアーチ、その大扉の蝶番も把手も年代物の鈍い輝きを見せている。古い。だが完璧なまでに美しい。ロ